

第5回 小金井市産業振興プラン策定委員会 会議録

日 時 令和3年12月12日（日）午後2時～午後4時

場 所 小金井市役所第二庁舎8階 801会議室

出席委員 10人

委員長 中庭 光彦 委員

副委員長 斉藤 浩 委員

委 員 森 文香 委員 高松 結花 委員

田中 千鶴枝 委員 西川 亮 委員

大坪 正直 委員 山城 裕路 委員

今井 啓一郎 委員 鴨下 勇司 委員

欠席委員 清水 薫 委員

事務局 市民部長 西田 剛

経済課長 高橋 啓之

産業振興係長 鈴木 拓也

株式会社国際開発コンサルタンツ 氏原 茂将

傍聴者 2人

議事

1. 開会

2. 議題

産業振興プランの素案について

事務局が資料1を用いて素案の内容を説明した後、意見交換を行った。

中庭委員長 議事進行は1時間と30分に分けたい。最初の1時間は第4章に示された6つの方針について考え方、取組内容、アイデアと第5章の内容について追記・修正する必要性を指摘してもらいたい。特定の方針に沿って意見を言ってもらってもよいし、全体的に議論いただいてもよい。その後、30分間でプラン全体について意見をいただくことにする。それでは、6つの方針について意見をいかがか。

最初に言うと、このプランは役所っぽい文書ではないという印象である。今後4年間、行政ではこのプランに沿って予算獲得・事業化をしていくことになるが、柔軟に事業化できるような書き方になっていると思う。それは行政

目線の話で、一方で事業者や市民の方の目線で取り組むべきことが書かれているかどうか、意見をいただきたい。

今井委員

誰が見るものなのかと考えると、情報のメリハリがない。市民が読むことを考えると、見せ方は工夫した方がよいと思う。

プランが出来上がると、このプランについて話をする場を用意しておいた方がよいと思う。行政が考えている事業を話し合えたりするとよいと思う。

中庭委員長

それぞれの意見を話し合う場が、これまでは制度化されていなかったと思う。そのため、21 ページに対話の場を書いてもらうようお願いした。第5章で主体が示されているが、それぞれの主体の活動について情報共有される必要がある。そのような透明度を上げるための場を用意するために記載してもらっている。

行政の取組はツリー状に取組を整理して、優先順位をつけるのだが、そうすると縦割りになりがちである。ただ、実態は様々な取組はからみあって成果を上げていくはずである。そういった実態を踏まえて、階層化せず、全体を一体となって取り組んでいくようにしたいという意向の文書構成になっている。そうすると事業者や市民の方向けになっている。

事務局

事業者の方や市民の方に読んでいただきたいので、あえて薄くしている。この文章はパブリックコメント用に行政文書として書いているので、最終的に計画書として冊子にする時はわかりやすいようにデザインをする。

概要版も作成するが、通常の概要版はパッと見てわかりやすいものにするあまり詳細なことは記載されていない。概要版よりも、計画書そのものを読みやすくして、公開していきたいと思う。

大坪委員

全体的に具体性がないのだが、どうとでもできるようにしているのか。具体性がないことで何もやらないことになってしまう不安もある。どう思っているのか。

事務局

事業者や市民のかたとつきあってきた経験上、事業者や市民の方の働きかけは強いと思う。そういった経験値と期待感もあるので、具体性がないから何もやらないということはないと思う。産業振興に取り組んできた経緯から、具体的に書くと、時代に沿った軌道修正ができなくなるという気もしている。ファジーに決めておいて、できることからやっていく方がよいと思っている。

大坪委員

それは理解できるのだが、コロナ禍においてスピード感をもって様々なことを変えていく必要があると思うのだが、短期間で進めるには曖昧であることは懸念点である。

委員長

ここで合意すべきは、書いてあることをやるということだと思うが、事務局はいかがか。

事務局

ここで話されたこと、書いてあることについては、やる方向で努力していくのが行政のスタンスである。

委員長

ここに示されたことはやるということなので合意されたということで、議論は進めていきたい。

- 齊藤副委員長 何かをやろうとしたときに、プランに載っていないと予算がつかないという印象である。そのため、何かをやろうとしたときに、「ここに書いてある」と言えるような内容であることが大事だと思う。だから、狭く書くよりも、広角な書き方が望ましい。
- これまで話してきたことは、魅力と人、そのための仕組みづくりだろう。魅力はいまもあるものと、これからつくっていくことだったと思うが、それについては書いている。その魅力をつくり、発信する人について書かれていて、そのための仕組みも書かれている。これぐらいの広角な書き方が適当だとは思っている。
- 中庭委員長 自分がやりたい、やってほしいと思うことが、読み取れるようなことが書かれているかどうかをチェックしてもらえるといいと思う。ほぼ網羅されていると思うが、強調してもらいたいところを指摘してもらいたい。
- 山際委員 工業事業者の立場からすると、商工会と事業者の関係の書き込みなど、地に足の着いた内容になっていると思う。
- このプランに書かれたことが進んでいるかどうかを確認するにはどうすればよいのか。また、最後の評価の考え方に示された意見交換の場は、商店会、商工会、協会のような中間的な組織も参画できるように書いてもらいたい。工業事業者の立場からすると商工会にがんばってもらいたいと思うので、商工会職員にも対話の場に参加してもらいたいと思っている。
- 中庭委員長 後者については事務局に書いてもらうようにする。前者についても対話を通じて情報共有するように考えているが、逆に本プランをつくっても、商店会や商工会等がやってくれないということも懸念としてある。そのため行政が商店会、商工会の進捗をチェックしていくような体制を担保としてつくっておくことが望まれるのではないかな。
- 事務局 行政はプランに書かれたことは当然やる。商店会、商工会、農業関係組織、観光まちおこし協会もちろん協力して取り組むことが本筋である。市民にとっては、本委員会委員は了解してもらえるとと思うが、そうでない市民も少なくないと思うため、行政が理解を得ていく取組をしていく必要があるだろう。そのためにも 21 ページに書かれているような場が大切になると思う。
- 中庭委員長 山城委員の指摘は、20 ページに書かれている商工会の中間支援的な役割に該当すると思う。ただ、違う組織に対することなので書き方としては弱い。もちろん行政は、商工会に対してプランに沿って取り組んでいるか照会することはできるが、書き方としては弱い。
- 現状、商工会は若い事業者の加入が減っているという課題がある。そういった課題改善もあるので、それを踏まえて商工会を変えていくような強い書き方をしてもよいのではないかな。
- 山城委員 18 ページの専門性の高い人材と事業者のマッチングを図ることが書かれているが、これを実行に移すにあたって商工会がやろうとするのか、市が後押しをするべきなのか。どのように進めるべきかについて考えを伺いたい。

中庭委員長 事業者自身がアクションを起こした方がスピーディだとは思う。ただ、市から商工会を通じて取り組むように促すこともできる。どちらもできるような書き方になっていると思う。

事務局 補助金の関係も含めていろいろな情報があるので、個別に相談していただければと思う。場合によっては、市だけではなく商工会をも巻き込んでいく話にもなる。

中庭委員長 補助金関係はどうしても面倒がかかる。マーケットでできることはマーケットでやった上で、補助金を活用しようとするときには支援を求めた方がよいと思うので、それは商工会や行政にニーズを上げていった方がいいと思う。

今井委員 商店会や商工会には、このプランに役割が示されていることを伝えないといけない。また、自分たち委員はプランに書かれていることに責任を持たないといけないと思う。また意見交換をする機会をつくることも必要になるだろう。

大坪委員 市民のみなさんからの意見も伺いたいが、いかがか。

森委員 みなさんが小金井を盛り上げたい人がいるということを知ることができたし、小金井市に住んでよかったと思っている。この委員会に参加しないと知ることがなかったと思う。触れる機会がなかった。委員会に参加した経緯があるので文章の意図も分かるが、参加していない人が読んでも同じ印象を持ってもらえるかは心許ない気はする。ただ、表現の柔らかさや包括的に書かれていることはよいと思う。

中庭委員長 委員会に参加していない人にとって伝わらないと思うところはあるか。

森委員 ネットワーク的な図が示されているとよいと思う。そうすると、事業者だけのものではなく、市民にもかかわるものだと思ってもらえるのではないか。

田中委員 これまで話してきたことが文書化されていると思った。この内容をすべてできるのであれば、期待感を持てる。

事務局 委員会に祭りのことが話されていたが、それは触れられているのか。

事務局 10 ページに入れようとしたが、事例が多すぎて具体的な部分の記載は頓挫してしまった。

田中委員 道草市やキッチンカーのレベル感が違うように感じる。大きなイベントを打ち出した方がよいと思う。

高松委員 市民はどのようにこのプランを手取るのか。

事務局 まずはパブリックコメントを行うが、その際は市のホームページや市役所、公共施設で配布する。それについて市民から意見をいただき、最終修正を行う。最終版は市のホームページで pdf を公開するほか、公共施設などで配布する。周知については、駅での配布など、工夫する必要があると考える

高松委員 せっかくなので、市民に知らせるための工夫が必要だと思う。

中庭委員長 スマホで見る人が多いと考えると pdf では見ないだろう。スマホ用の縮約版があった方がいいと思う。

高松委員 駅でポスターを貼り、プランがラックに置かれていると目に止まり、手に取

ってもらえると思う。

事務局 こちらとしては、どうしたら市民に届くのかを教えてもらいたいと思っている。アンテナを立てている人は積極的に情報収集してもらえるが、広くは届いていない。数多くプランをつくっているが、市民に知らえてもらえていないことが課題である。

中庭委員長 発信力のある人が人伝に知らせていくことが大事だと思う。

大坪委員 市民が無関心なこともよくないが、それに甘えて行政も情報発信しない。動画で発信するなど、工夫をしてもらいたいと思う。

高松委員 市報の強化については書かれていないが、やはり難しいのか。

事務局 結論から言うと市報を変えるのは難しい。市報については議会でも提案をいただいているが、動きがない状況である。市報は情報がたくさん載っているが、情報の掲載がよくないところがある。個別具体的な情報が限られた紙面のなかで、どこまで入れ込めるのかが課題だと思っている。

西川委員 策定プロセスは記載されるのか。

事務局 記載する予定である。

西川委員 これまでの意見は盛り込まれているが、曖昧であることが不安という意見がある。具体的に書き過ぎると自由度がなくなるということであれば、委員会での意見を参考として載せることも考えられるのではないか。その上で、「アイデア」として書かれている内容は「今後の取組の方向性」として示されてはいかがか。

また、「事例」は、市で取り組んでいることなので、「既に行われている取組」というような名称でまとめてはどうか。先ほど、委員会委員は責任を持つという意見を踏まえると、策定プロセスが示され、かつ意見が引用されているとよいと思う。

最後に質問だが、本委員会が評価委員のように継続されていくのはよいと思うが、年度ベースで重視する取組のイメージが既にあるのか、どのように位置づけるのか。

中庭委員長 事務局は、「事例」と「アイデア」の言い換えについてどのように考えるか。検討する。

中庭委員長 委員会で話し合われたアイデアの盛り込み方は様々な残し方がある。議事録を残していくことも考えられる。

西川委員 話し合われたアイデアを見た人が、自分でやろうと思うこともあり得ると思う。そういったチャンスとして残すこともあり得ると思う。ただ、行政のスタンスもあると思うので、その点はお任せする。

事務局 重視する取組の位置づけは、経済課の取組課題として位置づけることが想定される。それはプランと関連するところなので、評価にも使えるという考え方である。

鴨下委員 農業の観点でいうと、ブランド化に関する書き方の具体性はこれぐらいが適当だと思う。

- 中庭委員長 これまで話し合った内容が追記・修正すべき点は出尽くしたと思ってよいか。
- 斉藤副委員長 魅力づくりと、それを生み出す人づくりが中心だが、行政において産業振興を手掛ける人の育成も考える必要があると思う。異動はあるとは思いますが、専門的な人材を育てていくための異動・出向のルートや体制をつくってもらいたい。希望として付言しておきたい。
- 中庭委員長 大事なことだと思うが、役所もできることは限られている。行政に求めながらも、21ページの対話の場に専門性の高い人を参加してもらえればいいのではないか。
- 事務局 行政においても専門的な人材がいる方がよいと思っているが、行政職員はジェネラリストであるべきだと言われる。人材育成もそのような考え方に立っている。専門職もいるが、事務職の専門人材を育てるという考え方はない。国の方針に沿って事務をしていくような仕事ばかりではなく、政策判断を求められる仕事が増えてきているような気がしている。ただ、実態はなかなか難しいところである。
- 中庭委員長 そういう現状を踏まえて、専門性の高い人材を巻き込めるような仕組みをつくることを考えた方がよいように思う。
- 斉藤委員 先ほど委員会で出た意見を参考として記載するという発言があったが、それが実現するのであれば、専門人材の育成は書き込んでおいてもらいたい。経済課専属というわけではなく、継続性のある人材ネットワークができているとよいと思う。
- 中庭委員長 本プランの推進にあたって行政の人的な継続性を担保する旨を書き込むようなことがあってもいいのではないかと思う。それは委員会で求めるということで合意したということにしたい。取扱は事務局で検討いただくこととする。

3. 閉会